

優しく、たくましく、かしこい子どもに育てよう！

アニメ「はだしのゲン」上映会と ゲンの魅力を語る会

午前の部 (10:00～12:00)

アニメ「はだしのゲン」

午後の部 (13:30～15:30)

アニメ「はだしのゲン2」

著者の中沢啓治氏は、昨年12月に死去しました。準備会では氏を偲びこの企画を計画しました。

私たちは、「『はだしのゲン』を読んで(またはアニメを見て)、優しく、たくましく、かしこい子どもに育てよう」を合言葉に、2013年3月31日から活動を始めました。ゲンが被爆という過酷な環境の中で、不良仲間を思いやったりできる「優しさ」を忘れず、貧困に負けない「たくましさ」を持ち、どのように生きていくか知恵をしぼる真の「かしこさ」を身につけ成長していく姿を描いているからです。

準備会では、「はだしのゲン」の漫画(全10巻)の販売、アニメ(前編、後編)の上映、紙芝居の公演を通して活動を行っています。

はだしのゲン 中沢啓治著
広島で被爆した少年がたくましく生きる姿を描いた漫画「はだしのゲン」。松江市教育委員会が「発達段階の子どもにとって、一部の表現が適切かどうか疑問」などとして、閲覧の制限を市立小中学校に求めていたと知り、約30年ぶりに読みたくなった。書店へ行くと品切れで図書



館は貸し出し中。発行元が増刷を決める人気ぶりに、同じ思いの人が多くと驚いた。周囲に聞くと、昔読んだ記憶を口々に語る。「親類の家で読んで、広島を訪ねようと決めた」「病院の待合室で読んだ」。筆者も父の本棚で見

今読みたい本

つけて読んだ。記憶の鮮明さが作品の力を物語る。原爆で倒壊した家の下敷きとなった父と姉、弟の苦痛にゆがむ顔の前に、迫る猛火から逃げるよう父に促されたゲンが「いやじゃ」と泣き叫ぶ

場面がまず思い浮かぶ。著者が自らの体験に基づいて過酷な現実を徹底して描いていることで「しつかり生きる。まけるな元！」という最期の別れ際の父の言葉を守るゲンの強い生き方がさらに輝き、胸に迫る。この漫画を持ち帰ると、小学生の息子と娘が食いついた。「ちよつと怖い」と言いながら読んでいる。陽気なゲンの型破りな活躍が面白いらしい。麦は踏まれて強くなる。生きるための強さを学ぶためにも、多くの子どもに読んでほしい名作だ。(竹)

北日本新聞 九月一日付

とき 2013年12月8日(日)

午前の部 10:00～12:00
午後の部 13:30～15:30

*午前午後を通して参加の方は昼食をご持参ください

会場 富山県呉羽青少年自然の家

富山市西金屋 TEL 076-434-1908

参加費 大人500円 中学生以下100円

*参加費は当日 *会場準備のため、事前のお申し込みをお願いします。

主催 「はだしのゲン」をひろめる会・富山準備会

後援 核兵器廃絶をめざす富山医師・医学者の会

<連絡先>

NPO法人 富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊

〒930-0138 富山市呉羽町6454-1

電話 076-436-6675

参加申込書

Fax 076-436-6675

申込者 氏名	
-----------	--

大人	人
中学生以下	人